

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	54.5	47	51.6	45
	(0.89)	(0.84)	(0.83)	(0.87)
R8 正答率の全国比		0.77		0.8

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語、算数どちらも、5 年時、6 年時ともに、県平均を下回っている。全国平均との差は、さらに開いている。国語は、5 年時より 6 年時の方が、落ち込んでいるが、算数は、5 年時より 6 年時の方が県平均に近づいている。

・国語では、記述式の問題形式で、「書くこと」の内容に関する問題の正答率が 9.8%（県 27.6%、全国 33.5%）と低く、「読むこと」の内容に関する問題の正答率が 96.1%（県 75.3%、全国 76.4%）と高かった。全体的に、無回答率は低かった。

・算数では、「測定」領域は、県・全国平均を上回っているが、その他の領域は、県・全国ともすべて下回っている。「データの活用」の記述式の問題の正答率が 9.8%（県 13.1%、全国 17.9%）、「図形」の記述式の問題の正答率が 19.6%（県 33.1%、全国 40.1%）と低かった。また、小数の意味や数量の関係に着目することはできているが、基本の四則計算や公式を使った計算ができていない。

【意識調査】

・平日の家庭学習の時間が 1 時間以上の児童の割合が 41.6%であり、県 42.9%、全国 49.9%に比べてやや少ない。平日、ICT 機器を使って 30 分以上勉強する児童の割合が 42.9%であり、家庭学習は ICT 機器の積極的な利用が伺える。

・授業時間以外での読書が 1 時間以上の児童の割合が 1.9%であり、県 10.5%、全国 11.9%に対して圧倒的に低い。学校図書館を利用する頻度は月に 1～3 回、地域の図書館を利用する頻度は年に数回程度の児童の割合が一番多い。

・国語の授業では、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると答えた児童の割合が 86.8%であり、県 80.9%、全国 80.7%に比べて高い。文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめていると答えた児童の割合も 83%で、県 78.6%、全国 78.3%に比べて高い。

・算数の授業では、問題の解き方が分からない時はあきらめずにいろいろな方法を考えていると答えた児童の割合が 88.6%で、県 84.5%、全国 81.7%に比べて高く、このことが無回答率の低さにつながっていると考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・夏季休業中に、職員研修で2～4年生で実施した学力テストと県学力状況調査（5年生）、全国学力状況調査（6年生）の分析・考察を行った。分析・考察をし、夏季休業以降に取り組む学習内容を考えた。
- ・国語、算数ともに、大事な言葉や数値に印をつけ大事なことを落とさないように読ませる。
- ・朝の時間や家庭学習で、四則計算の基本的な計算練習に取り組ませる。
- ・テーマ作文を、授業中や家庭学習で取り組ませる。
- ・授業での振り返りを書く活動を継続して行い、高学年は条件をつけるなど、書き方を工夫しレベルアップを図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

【家庭学習の工夫】

- ・低・中・高学年に応じた課題の設定を工夫する。（自分で選べる宿題、個に応じた量の調整など）
- ・家庭学習で取り組んだ自主学習ノートのコピーを、学級で掲示し、互いに見合い学び合うことができるようにする。

【基本的学習規律の定着】

- ・学力向上の土台となる「授業に臨む構え」を整えるため、毎月の特定の1週間を、必要な文房具がそろっているか確認する「筆箱チェック週間」を実施する。

【教職員向け ICT 研修の実施】

- ・ICT 担当教諭による「ICT ミニ研修」などを実施し、教職員の指導力向上に努める。